

About becoz

「becoz」は、生活者のカーボンニュートラルな選択を後押しする
"環境価値"流通プラットフォームです。



becoz walletは、自分の生活によるCO₂排出量を知ることでライフスタイルを見直すきっかけを作り、削減しきれない分の排出は日本の森林、省エネ、再エネのオフセット方法を選んでオフセットできる個人向けのサービスです。15°C目標に準じるようオフセットすることも可能です。ver1.0では、購買や移動に関するアンケート回答を基に個人のCO₂排出量を算出します。



becoz cardは、決済データを元にCO₂排出量・削減行動の可視化を行えるクレジットカードです。金融取引から消費者のCO₂排出量を計算し地球環境への影響を計算するDoconomy社の「Aland Index」のアルゴリズムを利用。becoz card: SAISON CARD Digital for becozを利用してクレジットカードの決済データを元に、becoz wallet上でCO₂排出量・削減行動の可視化ができます。

[カードの入手をご希望の方はこちら](#)



協賛



来場者アンケート



脱炭素の未来をつくる、 あたらしい選択肢

6月5日は「世界環境デー」。

環境保全の重要性を再認識し、

環境への意識を高めるための日です。

22年のテーマは #OnlyOneEarth

世界が抱える環境危機のうち、

もっとも深刻な問題の一つが気候変動です。

「脱炭素」という言葉を目にすることが増えたけれど、
日々の暮らしでは変化を感じていない。」

日本で暮らす私たちにとって、

脱炭素に向けた取り組みは、

まだ身近なものではないかもしれません。

国内のCO₂排出量のうち、

約34%が個人の消費に関係するといわれています。

気候変動対策には、私たち一人ひとりが

ライフスタイルを変えていくことが重要です。

持続可能な未来のために、

いま始められるアクションとは？

"環境価値" 流通プラットフォーム

『becoz』の公開を記念し、

脱炭素の今を知り、未来について考えるための

イベントを開催します。

6.4 (Sat)

Session Timeline @stage

6.4 (Sat) 11:30-12:15

『オープニングセッション』

Speakers

久米村 隼人（株式会社 DATAFLUCT 代表取締役）
a(n)action

6.4 (Sat) 12:30-13:15

『暮らしの中のカーボン CNAのCO2排出量はどれくらいか』

モノが作られ、使われ、捨てられるまでにはあらゆる段階でCO2が排出されます。ライフサイクルアセスメント（LCA）はモノの人生全体で出されるCO2を把握する考え方。本セッションでは、Carbon Neutral Alternativesで排出されるCO2をどのように算定するか、LCAを研究する学生に解説いただき、今日からできるCO2の減らし方を検討します。

Speaker

東京都市大学伊坪研究室

6.4 (Sat) 13:30-14:15

『食を変えることで未来は変えられる』

世界の温室効果ガス排出量のうち、約10%は牛のげっぷに含まれるメタンガスに由来するとしていましたか？普段気なく選んでいる日々のメニュー、実は食材によって環境負荷に大きな差があります。本トークセッションでは、カロリーを気にするように食事の環境負荷を気にして変えていく、少しの工夫で実践できる新しく無理のないライフスタイルをご提案します。

Speakers

Mayu (Quisine 代表)
細井 優（Red Yellow And Green 株式会社 代表取締役）
葦刈 風矢（株式会社エコロギー 代表取締役）

6.4 (Sat) 14:30-15:15

『カーボンニュートラルを仕事にする』

気候変動に携わるキャリアはまだまだ広く認知されていません。一方で、企業の対応が求められるにつれ、同分野の専門家の重要性は増しています。本トークセッションでは、気候変動の情報開示をサポートする株式会社リクロマを立ち上げた加藤氏と、株式会社ウェイストボックスで温室効果ガス排出量算定や開示に携わる馬場氏をお呼びし、気候変動分野でキャリアを築く2代のお二人にお話を伺います。

Speakers

加藤 貴大（リクロマ株式会社 代表取締役）
馬場 智也（株式会社ウェイストボックス 環境ソリューション事業部）

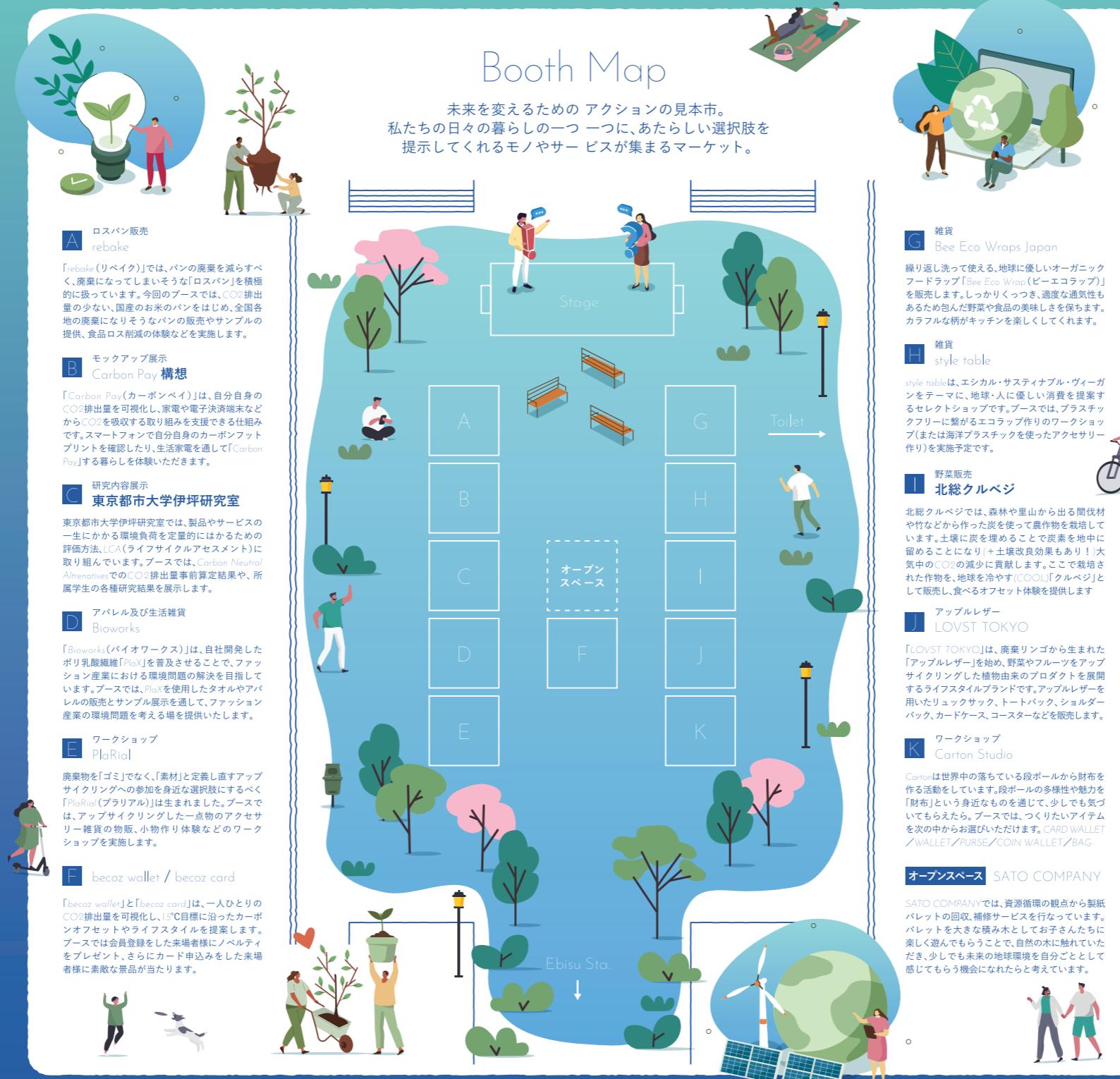
6.4 (Sat) 15:30-16:15

『未来の新しいものさしと責任ある企業とは』

「日々の暮らしの中で脱炭素に向けた行動はみんながすべきことだと8割の方が考えているというデータがあります。一方で、そこに向けたものさしや指標がないために、多くの方がどのように行動を起こしていいかがわからないという現状もあります。本トークセッションでは、経済価値に限らない環境のためのものさしをもち、未来への責任ある企業活動の実践者をお招きし、これから企業の在り方を語っていただきます。

Speakers

中西 悅子（パタゴニア日本支社 アクティビズム・コーディネーター）
福屋 剛（株式会社ウイファブリック 代表取締役）
池田 将太（ハチドリソーラー 代表取締役社長）



6.4 (Sat) 16:30-17:15

『まずはできることから ごみ問題の今と未来』

日本や海外で問題になっているごみ処理やリサイクル。日本でもプラごみを山に埋め立てていたり、マイクロプラスチックは意外なものが発生源であるなど、テクノロジーも活用したさまざまな調査でわかつきました。このセッションでは、ごみ処理の問題点やリサイクルの課題、一人一人が今日からできるごみ問題解決の方法を提案していきます。

Speakers
堀田 陽香（株式会社ビリカ）
松本 恵里佳（PlaRial）

6.5 (Sun)

Session Timeline @stage

6.5 (Sun) 12:00-12:45

『大企業横断の有志メンバーが取り組むカーボンニュートラルの世界』

現在、大企業をはじめとする多くの企業がESG+SDGsへの取り組みを加速させています。その中で大企業の若手・中堅メンバーはESG+SDGsについて何を思い、どのように社内外の活動に向き合っているのでしょうか。大企業の若手・中堅有志団体の実践コミュニティ「ONE JAPAN」から生まれた、ESG+SDGsに取り組むプロジェクト「BRIDGES」のメンバーがともに描くカーボンニュートラルの世界を語ります。

Speakers
岡井 啓明（BRIDGES SOMPO ホールディングス）
田中 悠太（BRIDGES 日揮ホールディングス）
松葉 明日華（BRIDGES 日本電気株式会社）

6.5 (Sun) 13:00-13:45

『循環型社会の実現に向けて』

廃棄物や汚染などの負が発生しない製品・サービスの設計を行い、原材料や製品はその価値を高く保ったまま循環させ続ける、「サーキュラーエコノミー」という概念をよく耳にすることになりました。「何かを我慢・犠牲にななくてはいけない」といったイメージもある一方、ウェルビーイングにも繋がるとも言われています。本トークセッションでは、その実践者の視点からサーキュラーエコノミーな社会を共有いただきます。

Speakers
那須 清和（Circular Economy Hub 編集長）
猿田 哲也（一般社団法人日本サステナブルサロン協会 代表理事）
マクティア・マリコ（一般社団法人 Social Innovation Japan 代表理事・共同創設者 mymizu 共同創設者）

6.5 (Sun) 14:00-14:45

『持続可能なファッショントピック』

近年話題のエシカル消費。ファッショントピックに対しても、可愛さやかっこよさのみならず、環境負荷の低さや製造プロセスの透明性が求められる時代になりました。これまでの素材や製造方法に限らない先駆的な取り組みが多く出てきております。本トークセッションでは、ファッショントピック業界に携わるゲストをお呼びし、「持続可能なファッショントピック」の在り方を探ります。

Speakers
蓑輪 光浩（オールバーズ合同会社 マーケティング本部長）
唐津 海斗（ラヴィストトキヨ株式会社 代表取締役）
滝越 潤（Bioworks 株式会社 執行役員）

6.5 (Sun) 15:00-15:45

『これからは個人も行う時代 カーボンオフセットとは』

2050年「ネットゼロ」を達成するためには森林や海洋といった自然を守り、CO2の吸収を促すことが不可欠です。人工林が多い日本の森林では、適切な国産材活用が不可欠かつ、カーボンレジットの創出により森林に新しい価値が付与されるようになりました。日本の森林保全をクレジット創出や国産材の使用により推進する先駆者の方々に、林業の現状や人工林の維持方法、カーボンオフセットの歴史や重要性についてお伺いします。

Speakers
水谷 伸吉（一般社団法人 more trees 事務局長）
館野 真理子（株式会社 SATO COMPANY 代表取締役）